

**研究報告**日本語学習者のための文法のオンラインリソースの開発<sup>1</sup>

ヨフコバ四位 エレオノラ

日本語学習者のための文法のオンラインリソースが不足している。特に、充実させる必要があるのは文法解説（書）である。既存の文法解説（書）は学習者のニーズやレベルに適しておらず、また学習者が最も必要とする情報は提示されていない。文法学習で多くの学習者が求めているのは、個々の文型とその運用のための情報だけでなく、類義表現（似ている意味・機能をもつ文法・文型）の使い分けに必要な情報である。本研究では、学習者のニーズに応えるべく学習者のための文法解説（書）のオンラインツール、いわゆる『参照文法』の開発を進めている。

**1. はじめに**

近年、日本語のためのオンラインリソースやデータベースは急増している。日本語学習者にも利用可能であり、または学習者を主たる対象としているデータベース（例えば、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）、『日本語日常会話コーパス』、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』など）が続々と開発されている。しかし、そのほとんどは語彙や会話に関するリソースである。一方、文法に関しては、オンラインで利用できるリソースも含め、学習者のためのリソースの開発が遅れている。それには様々な要因が考えられる。例えば、学習者が語彙について調べたいことが個々の語彙の意味と使用状況を明確に示す用例くらいであるため、語彙のリソースの作成に必要な情報は明瞭であり、かつデータ構築も、他技能（会話、作文、聴解、文法など）に比べ、速く進められる。それに対して、文法のリソース開発では、様々な問題が生じてくる。例えば、文法学習で必要な情報（文型の意味、用法の諸条件、運用のための明確な用例、類似表現との使い分けのための情報など）が多様なため、作成にあたり、何にフォーカスを当てればよいか、あるいは多様な情報をどのようにまとめればよいかという開発者側が直面する問題が多々ある。文法リソースの開発が進んでいないため、学習者は文法について分からないことや調べたいことが出てきたとき、何／どこを見れば自分が必要とする情報が入手できるかがわからず、様々なサイトを行き来しつつ必要な情報を検索しているが、学習者が使

---

<sup>1</sup> 本研究は JSPS21K00621 の助成を受けている。

用するサイトの中では信ぴょう性が決して高くないサイトもある。

そういった状況を踏まえ、本研究で、改善策の一環として、学習者がオンラインで利用できる学習者に必要な情報を収録した文法解説書（『参照文法』）の開発を進めている。

## 2. 日本語文法教育をめぐる

コロナ禍また学習方法の多様化に伴い、自律学習の機会が増えてきた。そのため、日本語教育でも、新しい学習スタイル（オンラインやオンデマンド）、また情報化社会の新生活様式に対応できる教授法やICTを活用したリソースの開発が求められている。特に、充実が必要とされるのは、リソースが不足している文法教育である。文法教育で課題となっているのは、「学習者の視点にたった新しい文法の再構築」（白川 2005）<sup>2</sup>、つまり学習者のための記述文法の充実と文法解説（書）の開発である。その背景にあるのは、学習者のための文法解説（書）が不足していることや既存の文法解説（書）が学習のニーズに適していないということである。

以下、まず文法解説（書）の現状および学習者のニーズについて簡単に見ておきたい。

### 2-1. 日本語文法解説（書）の現状

考察は、文法解説（書）の現状からはじめたい。

学習者が文法について調べたいときに参照出来るのは次の三つのタイプのリソースである（表 1）。

表 1 文法学習のためのリソース（例）

リソースのタイプ	例
①使用教材付属文法解説	1『みんなの日本語』多言語解説、スリーエー 2『初級日本語げんき』（1999）The Japan Times 『初級日本語げんき Genki-Online』 <sup>3</sup> 3『まるごと plus』 <sup>4</sup>
②文法の補助教材	1『日本語文型辞典』（2015）グループ・ジャマシイ編、くろしお 2 S. Makino&M.Tsutsui, <i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> (1986) The Japan Times 3『日本語文法セルフマスターシリーズ』くろしお
③オンラインリソース	1『機能語用例文データベース「はごろも」』 <sup>5</sup> 2『日本語文型バンク』 <sup>6</sup>

<sup>2</sup>白川博之（2005）「日本語学的文法から独立した日本語文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、pp.1-20.

<sup>3</sup> <https://genki3.japantimes.co.jp/>

<sup>4</sup> <https://marugotoweb.jp/en/>

<sup>5</sup> <https://www.hagoromo-text.work/>

<sup>6</sup> <https://bunkeibank.ninjal.ac.jp/>

一つのタイプは、①使用教材に記載されている文法の解説（紙媒体のものか専用の HP のオンラインツール）である。しかし、使用教材に記載されている文法解説については、いくつかの問題点が指摘できる。

1. 文法解説を掲載していない教材がある（むしろ、そういった教材のほうが多い）
2. 基本的に、文法の説明がその教材やシラバスに特化したものであるため、その教材を使用していない学習者には合わない
3. 記述内容が少なく、記述で不十分なところは、教師の説明によって補われる必要がある
4. 記載されている内容や情報は必ずしも学習者のニーズに合っていない

もう一つのタイプのリソースは、文法辞典も含めた②文法の補助教材である。しかし、そういった教材に関しても様々な問題がある。

1. 紙媒体のものが主流であり、現代の学習スタイルには合わない
2. 多くの補助教材は学習者ではなく、教師を対象としている
3. 説明文が長く、学習者にとっては解読が難しい

近年、少しずつではあるが、③オンラインリソースの開発も進められてきたが、オンラインリソースをめぐってもいくつかの問題点が指摘できる。

1. 数はまだ極めて少ない
2. 学習者を主たる対象としていない（cf. 『はごろも』<sup>7</sup>）
3. 初中級の学習者には向かない（cf. 注 7）
4. 学習者が求めている情報を掲載していない

## 2-2. 学習者のニーズ

日本語学習者を対象に行ったアンケート調査（ヨフコバ四位・稲葉・久保田 2020）<sup>8</sup>の結果から、学習者が文法について最も知りたいと思っているのは、似ている文法（文型）の使い分けのための情報であることがわかった。

助詞「は」と「が」を例にとって、説明したい。初級の文型である助詞「は」と「が」は、基本的に、どの教科書でも「は」→「が」の順に導入される。また、助詞「は」は、原則的に、どの教科書でも 1 課に出現する文法であるが、「が」の提示法や提示順にはばらつきがある。助詞「は」のしばらく後に助詞「が」が導入される<sup>9</sup>と、学習者は、欠かさず、この二つの助詞の違いや使い分けについて詳しい説明を求める。クラスでは、教員がその説明をするが、もし、学習者が自ら調べたりする必要がある場合は、文法解説のリソースを頼りに調べるしか方法がない。

<sup>7</sup> 「機能語用例文データベース「はごろも」は、日本語教師支援、中上級以上の日本語学習者支援として、文法項目が実際に使われている用例文を話し言葉と書き言葉の複数のコーパスから抽出し、web 上で公開するものです。」（HP より）

<sup>8</sup> ヨフコバ四位エレオノラ・稲葉和栄・久保田美子（2020）「日本語文法教育をめぐって」『日本語教育連絡議論集』vol.33, pp. 85-108. <http://renrakukaigi.kenkenpa.net/ronbun/2020013.pdf>

<sup>9</sup> 筆者が担当している初級クラスでは、助詞「は」は 1 課、助詞「が」は 7 課で導入される。

しかし、学習者が既存の解説書からどの程度の情報が得られるかということが問題である。  
次に、既存のリソースに記載されている「は」と「が」の説明について見てみたい。

### 2-3. 既存のリソースにおける助詞「は」と「が」の説明

表 2 に示したリソースを用いて考察したい。

表 2 既存の文法解説（書）<sup>10</sup>における助詞「は」と「が」に関する説明

リソース	初出の課		提示文型		説明	
	「は」	「が」	「は」	「が」	「は」	「が」
『みんなの日本語』 初級I翻訳・文法解説 英語版（2000）スリ ーエー	1 課	10 課	N は～です	N があります/ います	は indicates that the word before it is the topic of the sentence	the thing or person is treated as the subject and marked with が
『初級日本語げん き』（1999）The Japan Times	2 課	2 課	N は～です	QW が～です か	the question word which is the subject is never followed by は	with が extra emphasis is made on N, the new piece of information
		8 課		N がVました		
日本語学習サポート サイト『まるごと plus』	1 課	7 課 <sup>11</sup>	N は～です	N があります/ います	used when talking about N's name, nationality, profession	used when asking or explaining the location of things/persons
S.Makino&M.Tsutsui <i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> (1986) The Japan Times			だれが/【×は】来ますか		wa marks a topic or a contrastive element; the speaker assumes that the hearer knows the referent of wa	ga: focus, subject
『機能語用例文デー タベース「はごろ も」』ver. 3			N は～	N があります /います	particle indicating the subject	N is present in/at (existential sentence)

表 2 からまず明らかになるのは、「は」と「が」の記述には一貫性がないということである。つまり、これらの助詞は統語的特徴 (subject、主語) や語用論的な役割 (topic、主題; new information、新情報) をもとに記述されたりし、記述には対称性がない。また、例えば、『みんなの日本語』の

<sup>10</sup> 教科書は、全て初版を参照する。

<sup>11</sup> 「が」の初出は 6 課である。しかし、6 課の「が」が主格ではなく、目的語の「が」(N が好きです) であるため、ここでは、「は」との比較に、主格としての初出の課 (7 課) を用いる。

説明では、「は」は topic (主題)、「が」は subject (主語) をマークするとされているが、両助詞が主語をマークする場合の違いは何か不明である。さらに、ほとんどの教科書で別々の課で扱われ、学習者にとって関連性が掴みにくい「N1 は N2 にあります」と「N2 に N1 があります」という構文の違いに言及する解説は見当たらない<sup>12</sup>。

「は」と「が」を専用に取り上げている解説書もある<sup>13</sup>が、説明は 100 頁以上にわたり、学習者にとっては解説が困難である。

以上の考察から、既存の文法解説(書)は、学習者目線になっておらず、また学習者が最も必要としている情報を提示していないことがわかる。

### 3. 本研究の概要

2章で示された問題を少しでも改善すべく、現在、学習者のための文法解説(書)、『参照文法』を開発している。以下、『参照文法』の目的および仕組みについて説明する。

#### 3-1. 『参照文法』の目的

『参照文法』の主な目的は、学習者が既習文法について自ら整理や復習をすることである。『参照文法』のターゲットは初級を終えた学習者であるが、初級の学習者も使用できるように工夫を施している。また、教師(非母語話者教師、母語話者教師)も、文法指導上の留意点の確認のために利用することが可能である。

#### 3-2. 『参照文法』の仕組み

『参照文法』はあらゆる学習環境で勉強する学習者のための自律学習可能なオンラインツールである。『参照文法』には、旧日本語能力試験(JLPT)の基準で選定した4級と3級の120の文型が収録される。それぞれの文型は独立した頁に記述されている。リソースの前半(基礎編)には、表3にあるように、使い方のガイド、記述に使われる専門用語の説明、品詞や文体などについてのまとめが記載されている。後半(文型編)には、120文型の記述が記載されている。文型の記述には、Dokuwikiというソフトを用いて、データ入力を行っている。ソフトには、内部リンクの機能や音声の機能がついており、利用者は、これらの機能を通じて、頁を自由に行き来しつつ、情報を関連づけたり、用例の音声(読み上げ)を聴いたりできる。また、全ての頁が130カ国語に翻訳することが可能であるため、様々な国や地域の学習者は本ツールが利用できる。

---

<sup>12</sup> Japanese for Busy People (2006、講談社インターナショナル)の8課だけには、二つの文型が以下のように並んで提示される事例がある。

例) 1かいにレストランがあります。

レストランは1かいにあります。

<sup>13</sup> 野田尚史『日本語文法セルフマスターシリーズ1』(1985)くろしお、全109頁

表3 『参照文法』 基礎編

文法書の使い方について
用語の説明
助詞
名詞（文末形式）～デス形
形容詞（名詞修飾、文末形式）
コソア・指示詞
動詞のマス形
動詞の活用表
授受動詞
動詞のタイプ（動作、変化、状態；自他；意志／無意志）
疑問詞
文体（全品詞）
敬語
名詞修飾
文のタイプ（単文／複文） 主節／従属節

『参照文法』の最大の特徴は、文型の記述は機能ごとに行い、また、学習者が必要としているであろう類似表現の使い分けのための情報、つまり、機能ごとに使い分けが必要な文型、その用例、類似表現の違いについて提示していることである。初級の学習者も利用できるように、ことばによる説明を最小限とし、明確な用例や図表を用いて不足の説明を補っている。また、類似表現の例に関しては、語彙を統一し、同じ文脈で提示している<sup>14</sup>。

### 3-3. 文型の記述の具体例

それぞれの文型の頁の構成は、次のようになっている。

◆基本情報

1. 旧 JLPT 該当級
2. 品詞

<sup>14</sup> 「まだ」と「もう」の記述から  
 例) ごはんはまだ食べていない。  
 例) ごはんはもう食べた。

3.前接（必要な場合のみ）

4.意味

◆使い分けが必要な文法・文型<sup>15</sup>

◆文型を使う上で理解が必要な情報

◆機能

機能 1

機能 1 の用例

機能 1 と使い分けが必要な文法・文型

機能 1 と使い分けが必要な文法・文型の用例

機能 1 と使い分けが必要な文法・文型の違い

機能 2<sup>16</sup> . . .

◆コラム<sup>17</sup>

◆確認問題

◆確認問題の説明<sup>18</sup>

以下、「は」と「が」の記述頁を用いて、上記の構成項目の具体例を示す。

---

<sup>15</sup>従来の文法解説（書）の記述とは異なり、本ツールでは、類似があり、また使い分けが必要だと思われる全ての文法・文型を提示している。

たとえば、助詞「が」は、一般的に、助詞「は」のみと対比されるが、本ツールでは、助詞「が」と使い分けが必要な文法として、助詞「は」に加え、助詞「を」も提示している。それは、「対象」を表す場合の助詞「が」の用法を理解させるためである。

<sup>16</sup> 機能 2 以降は、機能 1 と同様に記述していく。

文型の全機能を（初級を超えた機能も）掲載するのが本ツールの基本であるため、機能の難易度を★（★の数）で示している。

<sup>17</sup> 機能の情報以外に必要な情報をコラムに掲載している。

<sup>18</sup> 説明は、ことばではなく、正解を導く解説の中の箇所のみ示している。

図1 「は」: 基本情報、使い分けが必要な文法・文型、文型を使う上で理解が必要な情報

図2 「が」: 基本情報、使い分けが必要な文法・文型、文型を使う上で理解が必要な情報



## 機能

[編集](#)

**機能1★：主題・主語（主格）**

主題・主語=古い情報 [は] 述語=新しい情報

※主語はいつも主題である（例1、例2）。しかし、主題は主語でなくてもよい（例3、例4）。

[編集](#)

**機能1用例：**

例1. 田中さんは先生だ。	田中さん=主語・主題
例2. 子どもはにわで遊んでいる。	子ども=主語・主題
例3. 空港は、どうやって行きますか。	空港=主題
例4. きょうは、あまりいそがしくない。	きょう=主題
例5. パンはよく食べます。	パン=主題

[編集](#)

**機能1と使い分けが必要な文法・文型：**

- ・助詞「が」
- ・助詞「を」（主題が目的語である場合）

[編集](#)

**機能1と使い分けが必要な文法・文型の用例：**

例6. 田中さんが先生だ。

例7. 子どもがにわで遊んでいる。

例8. 朝、よくパンを食べます。

[編集](#)

**機能1と使い分けが必要な文法・文型の違い：**

**助詞 [は]：主語・主題=古い情報/述語=新しい情報（述語にQW）**

田中さんは先生だ。 ← 田中さんは何？  
古い情報 新しい情報

子どもはにわで遊んでいる。 ← 子どもは何をしている？/子どもはどこで遊んでいる？  
古い情報 新しい情報

**助詞 [が]：主語=新しい情報（主語にQW）/述語=古い情報**

田中さんが先生だ。 ← だれが先生？  
新しい情報 古い情報

子どもがにわで遊んでいる。 ← だれがにわで遊んでいる？  
新しい情報 古い情報

**助詞 [を]：N=動きの対象（目的語）**

朝、よくパンを食べます。  
          動作の対象（目的語）

図3 「は」：機能1

編集  
編集

## 機能

**機能1★：主語（主格）**

主語＝新しい情報 [が] 述語＝古い情報

機能1用例：

例1. 田中さんが先生だ。  
 例2. 子どもがにわで遊んでいる。

機能1と使い分けが必要な文法・文型：

助詞「は」

機能1と使い分けが必要な文法・文型の用例：

例3. 田中さんは先生だ。  
 例4. 子どもはにわで遊んでいる。

機能1と使い分けが必要な文法・文型の違い：

助詞 [が]：①主語＝新しい情報（主語にQW）／述語＝古い情報  
 ②文＝新しい情報

①田中さんが先生だ。 ← だれが先生？  
 新しい情報 古い情報

①子どもがにわで遊んでいる。 ← だれがにわで遊んでいる？  
 新しい情報 古い情報

②子どもがにわで遊んでいる。 ← 何が起きている？  
 新しい情報

助詞 [は]：主語／主題＝古い情報／述語＝新しい情報（述語にQW）

田中さんは先生だ。 ← 田中さんは何？  
 古い情報 新しい情報

子どもはにわで遊んでいる。 ← 子どもは何をしている？／子どもはどこで遊んでいる？  
 古い情報 新しい情報

編集

図4 「が」：機能1

<p><b>機能2★：対比【N1は～、N2は～】</b></p> <p><b>機能2用例：</b></p> <p>例9. <u>リンさん</u>は中国人ですが、<u>ヤンさん</u>は韓国人です。</p> <p>例10. <u>コーヒー</u>は好きですが、<u>紅茶</u>はあまり好きじゃないです。</p> <p>例11. <u>フランス</u>には行ったが、<u>スペイン</u>には行かなかった。</p> <p><b>機能3★★：総称【Nは～（N＝総称、一般的な名詞・・・どのN）】</b></p> <p><b>機能3用例：</b></p> <p>例12. <u>地球</u>は丸いです。 総称</p> <p>例13. <u>ペンギン</u>はとりです。 総称</p>	<p>編集</p> <p>編集</p> <p>編集</p> <p>編集</p>
--	---

図5 「は」：機能2・機能3

<p><b>機能2★★：おどろき</b></p> <p><b>機能2用例：</b></p> <p>例5. あっ、ねずみがいる！ ← おどろき</p> <p><b>機能3★：N＝動きの対象</b></p> <p><b>機能3用例：</b></p> <p>例6. 田中さんは<u>歌</u>が上手だ。</p> <p>例7. わたしは<u>くだもの</u>がすきだ。</p> <p>例8. わたしは<u>水</u>が飲みたい。</p> <p>例9. アンさんは<u>日本語</u>ができる。</p> <p>例10. ヤンさんは<u>日本語</u>がわかる。</p> <p><b>機能3と使い分けが必要な文法・文型：</b></p> <p>助詞「を」</p> <p><b>機能3と使い分けが必要な文法・文型の違い：</b></p> <p>※一般的に、動きの対象に助詞「を」を使う。</p> <p>例11. くだものを<u>食べる</u>。</p> <p>例12. 日本語を<u>話す</u>。</p> <p>例13. 水を<u>飲む</u>。</p> <p><b>対象に助詞「が」を使うのは次の場合：</b></p> <p>①能力を表す形容詞（上手、下手、得意、苦手 など） ⇒ 用例6.</p> <p>②感情を表す形容詞（好き、きらい、ほしい など） ⇒ 用例7.</p> <p>③Vたい ⇒ 用例8.</p> <p>④可能V（できる、Vれる/Vられる） ⇒ 用例9.</p> <p>⑤感覚V（見える、聞こえる、わかる） ⇒ 用例10.</p>	<p>編集</p> <p>編集</p> <p>編集</p>
---	-------------------------------

図6 「が」：機能2・機能3

[編集](#)

## コラム

➤ 「助詞+は」

「には」 ○ 例) きょう、大学には行きません。  
 「では」 ○ 例) この川では泳げません。  
 「とは」 ○ 例) もう田中さんとは会いません。  
 「からは」 ○ 例) 田中さんからはプレゼントをもらいませんでした。  
 「までは」 ○ 例) 仕事は、5時までは終わりません。  
 「がは」 ×  
 「をは」 ×  
 「もは」 ×

➤ 「N1はN2が〜」文：N2はN1の部分や特徴

東京 (N1) は物価 (N2) が高いです。 ×東京の物価が高いです。  
 北海道 (N1) は冬 (N2) が寒いです。 ×北海道の冬が寒いです。  
 田中さん (N1) は髪 (N2) が長いです。 ×田中さんの髪が長いです。  
 日本語 (N1) は漢字 (N2) が難しいです。 ×日本語の漢字が難しいです。

➤ 主節と従属節の主語が異なる場合、従属節の主語に「が」を使う。  
 これは母がくれたプレゼントです。  
 これ=主節の主語  
 母=従属節の主語

[編集](#)

## 確認問題

- 1 どの人 {a.は b.が} 田中さんですか。
- 2 お誕生日 {a.は b.が} いつですか。
- 3 あの家 {a.は b.が} 窓 {a.は b.が} 大きいです。
- 4 やさい {a.は b.が} 買ったけど、くだもの {a.は b.が} 買わなかった。
- 5 学生 {a.は b.が} まじめに勉強しなければなりません。

[編集](#)

## 確認問題の説明

- 1 cf.機能 1
- 2 cf.機能 1
- 3 cf. コラム
- 4 cf.機能 2
- 5 cf.機能 3

[編集](#)

図 7 「は」：コラム、確認問題、確認問題の説明

[編集](#)

## コラム

> 「N1はN2が〜」文：N2はN1の部分や特徴  
東京（N1）は物価（N2）が高いです。 ×東京の物価が高いです。  
北海道（N1）は冬（N2）が寒いです。 ×北海道の冬が寒いです。  
田中さん（N1）は髪（N2）が長いです。 ×田中さんの髪が長いです。  
日本語（N1）は漢字（N2）が難しいです。 ×日本語の漢字が難しいです。

>主節と従属節の主語が異なる場合、従属節の主語に「が」を使う。  
これは母がくれたプレゼントです。  
これ=主節の主語  
母=従属節の主語

## 確認問題

- 1 どの人 {a.は b.が} 田中さんですか。
- 2 お誕生日 {a.は b.が} いつですか。
- 3 あの家 {a.は b.が} 窓 {a.は b.が} 大きいです。
- 4 あそこに、お金 {a.は b.が} 落ちています！
- 5 新しいパソコン {a.を b.が} 欲しいです。

## 確認問題の説明

- 1 cf.機能1
- 2 cf.機能1
- 3 cf.コラム
- 4 cf.機能2
- 5 cf.機能3

[編集](#)

図 8 「が」：コラム、確認問題、確認問題の説明

#### 4. おわりに

本稿で、日本語文法教育に関して指摘されている学習者のための文法のリソースの不足という問題の改善策の一環として開発を行っている『参照文法』というオンラインツールについて紹介した。作業を進めるにあたり、内容の精査や記載方法、用例の音声、頁の翻訳などいくつかの課題がまだ残っているが、暫定的に、2023 年末を目処に、ツールを公開したいと考える。

ヨフコバ四位 エレオノラ

教養教育院